

The Romanticism of Synthesizer

このシンセサイザーの前に立つ。誰もが手を触れたくなる。そして想像するだけで音の変化が見えてくる。そんな熱い衝動が自然にわき起こるシンセサイザーであることが理想でした。“イマジネーションを限りなく音色に表現する”。このシンセサイザーの原点にこだわって、JD-800誕生。たとえばハードウェアには現代デジタル・シンセサイザーの頂点とズバ抜けた音の良さを与えました。そしてアーティストとの一体化のために、ダイレクト・コントロール化をはじめスライダーやスイッチ類の感覚的な形状をも解析。これはシンセサイザーを愛し、シンセサイザーを育て、シンセサイザーを考えつづけてきたローランドがどうしてもつくりたかった一台。想像力と創造力に捧げるロマンティシズムの純粹結晶です。

シンセサイズの原点「創る」

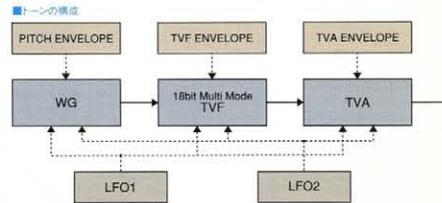
このシンセサイザーを誕生させたのはたったひとつのコンセプトの力です。とても純粋な夢の力です。音を創る。このシンセサイザーの原点からシンセサイザーを考えたい。この楽器だけに許された“音を自由に創る”という特権のために。現代の最も鋭いシンセサイザー・テクノロジーを与え、歴史的なアナログ・シンセサイザーの名機たちを手がけることで培ったローランドの豊かな経験とノウハウも惜しみなく注ぎ込む。これがJD-800誕生の背景です。デジタル・シンセサイザーによって拓かれた最高度のクオリティと最先端のシンセサイズ表現力を手に入れた今だからこそ、その恵まれた資質をベースに、あらためて「音づくりの自由度」にこだわったシンセサイザーをつくらう。これはローランドがいつかきっと誕生させたかったシンセサイザーのひとつの極点。そうしておそらく、シンセサイザーを心から愛するキー

ボードイストが久しく憧れたドリーム・モデルの誕生ではないでしょうか。巨大に広がる現代シンセサイザー・ジャンルにあって永遠の原点、JD-800誕生。

理想のダイレクト・オペレーション

いかにも創造力の塊といったダイナミックなデザインは、キーボードイスト自身のポテンシャルやステータスさえ雄弁に語り尽くしてくれるに違いありません。パネル上には1トーンにかかわるすべてのパラメーターを操作子として配置。各操作子の動きでトーン全体を一望でき、アナログ・シンセサイザー感覚のスムーズで直感的なオペレーションで、最新のデジタル・シンセサイザーを精密に思いのままに操れます。ステージ上では、たとえば音色変化の大きなTVFのカットオフ・フリケンシーをリアルタ

イムにエディット。オーディエンスのノリや曲調にあわせて劇的な音色変化を積極的に生かしたパフォーマンスをどうぞ。スライダーでエディットしたバリエーションなどコントロール系専用ディスプレイと、音色など演奏情報専用のダブル・ディスプレイをはじめ、4トーンを縦横に制御し、任意のパラメーターの設



定や各トーン間のパラメーターの合わせ込みなども簡単にできる4トーン対応のパレット・スライダーなど、すべてに快適操作へのアイデアを投入しました。

